

Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 「フォンス サピエンティエ」



No. 25
2025.3

Contents

- ・館長あいさつ
- ・教員の近刊単・共著の紹介
- ・推薦図書
- ・より良い図書館をつくるための懇談会
- ・編集後記



館長あいさつ

「ロンドン大学図書館の思い出をとおして」

東日本大震災のあった 2011 年、私は 9 月から客員研究員としてロンドン大学東洋アフリカ研究学院（通称 SOAS）で 6 か月研究する機会を得た。

住居がやっと決まった次の日、図書館の中にある研究室にこもって、渡英後、はじめて集中して資料を読むことができた。

何時間経ったのか。ふと、異変に気づき、ドアを開けると、真っ暗である。図書館に閉じ込められたのだった。

窓外を歩く人を見つけて、大声で助けを求めた。しばらくすると、懐中電灯を照らしながら、身長 2 メートルはあるかと思われる守衛 2 人がやってきた。彼らは「なぜ、閉館時間を守らずにここにいるのか」と詰問した。「誰も残っていないことを確認して消灯するべきで、あなたたちは職務怠慢ではないか」と言いたかったが、私の英語力に限界がある。結局「ごめんなさい」と謝罪し、恐縮しながら彼らと非常口に向かった。

ロンドン大学図書館の強烈な思い出は、失敗だけではない。約 400 言語で書かれた 150 万冊ほどの蔵書量である。私の専門の日本文学に関する蔵書も多く、日本では散逸した、関東大震災直後の状況を記録した冊子もあった。日本で通常使っている複写機はほとんどなく、スキャナーである。当時の日本では珍しかった、開いたページを上から写すものだった。それ以上に驚いたのは、司書たちの強いプロ意識である。初日に、日本の文学関連のデータベースを質問したところ、何も見ずに 4 つほどのサイトの URL を紙にメモしてくれた。大正期に渡英したと思われる或る日本人について調べる方法を尋ねたこともあったが、みつかるまであらゆる方法をメールで提案し続けてくれた。ロンドン大学図書館に勤務する司書達の矜持は、怠け者の私でさえもまじめに研究しなければならないと思わせる強さがあった。

図書館は、勉強するのに快適で居心地もよかった。平日は、閉館時刻の 23 時近くまでいることもあった。館内では学生も多く、安全だった。

もちろん、それぞれの図書館には個性があるので、そのまままねする必要はないし、できない。しかし、本学も利用者にとって一層快適で居心地がよい図書館にする必要がある。

その実践例として、利用者が一層快適に勉強・読書・視聴・調査できる仙台白百合女子大学図書館にするために、「より良い図書館にするための懇談会」が誕生した。学生から自由闊達な意見が出されて、自省すると共に改善に役立てている。感謝したい。



大本 泉

教員の近刊単・共著の紹介

『教室の未来を拓く タブレットPCで育む豊かな学びの手引き ～学びの変革をもたらすタブレットPCの教室革命～』

編者：山崎宣次 著者：加藤直樹 及川浩和ら7名 出版：Amazon 2024年11月刊行

子ども教育学科 山崎 宣次



タブレット端末の導入が教育現場にもたらした変化を鋭く問い直す本書は、GIGAスクール構想から約5年を経た今、教育の真価を考える一冊です。コロナ禍で始まったオンライン教育とコロナ後の現場の実情を振り返りつつ、昭和型教育への回帰傾向に警鐘を鳴らし、タブレットを活用した「真の教育変革」の道を提唱する本となっています。

執筆陣には校長経験者を含むベテラン教員が揃い、現場で得た貴重な知見を惜しみなく共有しています。

具体的には「理論編」で大学教員2名、「実践編」では5名（校長退職後ICT支援教員2名、特別支援学級担任を含む現職教員3名）が執筆しています。特に実践編では小学校・中学校・特別支援学級と様々な校種での実践例が紹介されています。

初任者から教育委員会関係者まで幅広く役立つ内容で、次世代の教育を担う全ての人に届けたい一冊です。

編者である山崎は、「発行にあたって」「はじめに」「おわりに」などを執筆しました。

『保育内容「人間関係」理論から実践まで』 塩野谷斉編著 講談社 2024年10月刊行

子ども教育学科 松好 伸一



本書は、本学子ども教育学科2025年度前期科目「保育内容（人間関係）」で使用するテキストになります。

私が執筆を担当したのは13章の「保育の計画・評価と領域「人間関係」です。子どもの発達を踏まえた計画立案についてポイントを示しながら（理論）、私が保育者として働いていたころのエピソード（実践）を交え、わかりやすく示しています。

具体的な保育計画を例に挙げ、子どもの発達と保育

実践がどのようにリンクしているのか、また自分が保育計画を立てるときに、どこに注目して立案するのが視覚的に理解しやすい形になっています。本書の最終章になっており、領域「人間関係」を保育にどのように取り入れるのかのまとめの章です。

また、本書は「ですます調」で書かれており、柔らかな印象で読みやすくなっていますので、履修学生以外にも手に取ってほしいと思います。

『田山花袋事物事典』 五十嵐伸治・伊狩弘・千葉正昭編 鼎書房 2024年5月刊行

グローバル・スタディーズ学科 大本 泉



日本近代文学史、あるいは『文豪ストレイドッグス』で、田山花袋の名前を知っている人は多いのではないのでしょうか。本著は明治・大正期の日本自然主義文学を牽引していった田山花袋の文学を読む上で、必携の研究書または手引書になるように編纂されたものです。

内容は、有名な『蒲団』を含む主要9作品の解説、花袋自身あるいは花袋文学に関する70項目にわたる解説、作家自身および文学に影響を与えた外国作家・文学との関係性、略年譜で構成されています。

花袋は旅をこよなく愛しました。たとえば『一兵卒の銃殺』の主人公尾崎要太郎のモデルの郷里が作並だったことが本著でわかります。主人公の葛藤のみならず、昔の同温泉街の様子も知りたい人は、ぜひ作品を読んでみて下さい。花袋の実際の足跡をも追って、作品への影響を整備したのも本著の特徴です。

ちなみに筆者は、本著で花袋文学の『残雪』や『山上の雷死』等を取りあげ、フランスの作家ジョリス＝カルル・ユイスマンス文学の影響について述べました。

推薦図書

『アルド・チッコリーニ わが人生 ピアノ演奏の秘密』

パスカル・ル・コール 著／海老彰子 訳 全音楽譜出版社

子ども教育学科 四家 昌博



アルド・チッコリーニというピアニストをご存知でしょうか。世界中で活躍し多くの音楽家や聴衆から愛された素晴らしいピアニストです。2015年に89歳で天寿を全うされましたが、そのチッコリーニの言葉を門下生のパスカル・ル・コールがまとめたものがこの本です。日本語版は、こちらも門下である海老彰子先生（私の先生でもあります！）が翻訳されました。チッコリーニが大音楽家たちから得た助言や、ピアノのテクニクを得るための訓練法など、演奏者の悩みに答える得難い助言を提示した内容ですが、ピアノに興味があっても芸術について、さらに何か1つのものを極める人はどんな人なのかを知ることで、様々な分野に共通する学びにもなると思います。とても読みやすく、私にとっても何度も読

み返したお守りのような1冊です。

幸運なことに2012年の来日時のコンサート（セヴラックとドビュッシー）を聴くことができましたが、本当にこの上ない体験でした。ピアノまで杖をつきながら歩いて来られましたが、演奏はなんの枷もなく自由に飛び回り、それでいてみずみずしく美しく、完璧な構造の建築物のようでした。アンコールのスカラッチェの演奏時には、客席もステージも暗くなり、鍵盤だけに照明を当てる演出がなされ、音楽だけに没頭できるまさにエマーシブな体験でした。現在ではチッコリーニの数多くの録音はYouTubeなどでも聴くことができます。ピアノを弾く人も弾かない人も、ぜひ演奏を聴きながらこの本を読んでみてください。



みなさん、先生や親から「だらだらするな！しっかりやれ」と言われたことはあっても「だらだらしろ！なぞもつとリラックスしないのだ！」と言われたことはないのではないでしょうか。本書の著者の一人であるウスビ・サコ先生（京都精華大学教授）は真剣に学生に対して「だらだらしろ！」と呼びかけます。サコ先生の目には日本人が常に「過緊張」にさらされている姿が映ります。日本人、日本の若者は幼いころから横並びでスコアをつけられ、排除されることを恐れる。そして学校教育のなかで「みんなと同じ表情」をすることで、身の安全をはかろう

とする。そして次第に無表情になり、「単純」になっていく。しかしこの予測不能時代に、みんなと同じ表情を目指し、自分なりの意見を持たないことはネガティブに働きます。だからこそサコ先生は型にはまらず教員や社会が求める規格に自分を合わせようとしすぎるなという意味で「だらだらすること」、だらだらとリラックスして自分なりに動いてみることを勧めます。最近なんとなく窮屈だなという思いを抱える学生にぜひ手にとってほしい一冊です。

『オッサンの壁』佐藤 千矢子著 講談社

健康栄養学科 大久保 剛



スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が発表するジェンダー・ギャップ指数において、日本は2024年版で146か国中118位と低迷している。この順位は、先進国の中で常に最下位に位置し、日本社会におけるジェンダー平等の遅れを如実に示している。特に、女性が政治や経済の分野で意思決定のポジションに就く機会が著しく限られていることが、この結果の主要な要因である。この事実から、日本は依然として「男尊女卑」の価値観が根強く残る社会であることが浮き彫りになる。

本稿で取り上げる書籍では、「オッサン」という言葉を単なる中高年男性のことではなく、男性優位の現状を維持しようとする社会構造に無自覚に埋没し、想像力に欠ける人々を指す概念として用いている。つまり、「オッサン」は年齢や性別に依存するものではなく、その価値観や行動様式こそが本質である。したがって、男性であっ

ても「オッサン」ではない人もいれば、女性であっても「オッサン」と呼べる人は存在する。

日本社会におけるジェンダー不平等の問題を考える上で重要なのは、単に男性対女性の対立構造として捉えるのではなく、現状維持を是とする無意識の思考様式や社会的慣習そのものに目を向けることだ。「オッサン」という言葉を通じて描かれるのは、まさにそうした固定観念に縛られた人々の姿であり、その存在こそが社会の停滞を招いているのかもしれない。

著者は、全国紙で女性初の政治部長に就く。「女性初」がつきまとい、オッサンの壁とどのように向き合っていくか軽妙な語り口で読みやすい。更に、この書籍には、女子大だからこそ行うべき教育についての指針が散りばめられている。こんな時代だからこそ、女子大には意義があり、女子大の重要性を認識する一冊であった。

『数奇なる奴隷の半生』フレデリック・ダグラス自伝 岡田誠一訳 法政大学出版局

グローバル・スタディーズ学科 山田 恵



フレデリック・ダグラス著『数奇なる奴隷の半生』は、アメリカ文学史において重要な位置を占める奴隷体験記の代表作であり、19世紀の奴隷制度の実態を生々しく伝える貴重な証言です。本書は、奴隷として生まれたダグラスが、非人道的な扱いを受けながらも識字を学び、自由を求めて戦い続けた軌跡を描いています。彼の知的成長と自己解放の過程は、個人の勇気と教育の力を示し、現代の読者にも強い影響を与えます。また、本書はハリエット・ジェイコブズの『ある奴隷少女の自伝』などと

並び、奴隷体験記というジャンルの確立に貢献しました。こうした作品は、奴隷制度廃止運動の中で広く読まれ、特に北部の読者に強い共感を呼びました。さらに、ダグラスの文体は単なる証言を超え、アメリカ文学の中で高い評価を受けています。本書を通じて、アメリカの奴隷制の歴史を学ぶだけでなく、文学としての価値も再認識できるはずです。アメリカの歴史と文学を深く理解するために、ぜひ一読を勧めたい本です。

『2人の天使にあったボク』石巻・絵本製作プロジェクトチーム

リーブル出版

図書館司書 濱田 富美江



この絵本は、子どもが自ら命を守る選択が出来るように、そして子どもから大人まで、避難時の重要ポイントを再認識し命を守る行動が出来るようにと願いを込めて制作させていただきました。

私たちは東日本大震災という恐ろしい体験をしました。そして、たくさんの命を失いました。この出来事を風化させることなく、一人でも多くの命を守りたいという想いが、絵本作りのエネルギーとなりました。

絵本作作をする中で、さらに深くいろいろな出来事を知り、たくさんの想いを知りました。このたくさんの想いを、絵本を通して広く、人々に伝えること

が出来ればと思っております。そして、大切な命の一つでも多く、守る事が出来ればと願っております。

前述しましたが、ストーリーの中で、主人公海(かい)くんの行動から、避難時の大切なポイントを伝えております。いざという時、正しい判断の助けとなる事を願っております。

海くんは無事にお父さん、お母さんに会うことが出来るでしょうか。

皆さんの避難時の意識(認識)・判断は正しいでしょうか。

是非、絵本を読んで、一緒に考えてみてください。

『東北キリシタン探訪』が「河北新報」書評で紹介されました



2024年12月1日「河北新報」書評にて本学カトリック研究所（加藤美紀前所長）の編著による書籍『東北キリシタン探訪』（教友社）が紹介されました。

本書は、キリシタンに関する講演会記録と、東北キリシタン研究会の成果の一端を取めたものです。10編の各著者の専門分野は多岐にわたり、歴史学、女性史学、郷土史研究、博物学、文学、教育学、神学の協働が東北で結実しました。マクロとミクロの視点からキリシタンの実像に迫ろうと試みた本です。

(目次)

第Ⅰ部 キリシタン再発見

潜伏キリシタンが問いかけるもの▷高祖敏明／キリス

ト教の伝来と戦国日本▷平川新／日本のキリスト教受容の諸相をふりかえって▷川村信三／生誕百年の遠藤周作『侍』と東北キリシタン▷山根道公

第Ⅱ部 東北に息づくキリシタン

地域の人々の活動に生きる隠れキリシタン▷高橋陽子／光へ続いている道▷高橋陽子／「米川新聞」からみえるキリシタンと地域社会▷佐藤和賀子／福島キリシタン▷佐藤芳哉／物語の中の慶長遣欧使節▷川上直哉／カトリック教会における殉教の意義▷加藤美紀 仙台白百合女子大学カトリック研究所編『東北キリシタン探訪』教友社、2024年3月刊行、全400頁。

より良い図書館をつくるための懇談会

魅力ある図書館にするため、学生の自由闊達な意見を伺う場として、今回で6回目となる「より良い図書館をつくるための懇談会」を開催しました。

今回も各学科の学生にお集まりいただき、沢山の意見をいただきました。

日 時：2025年1月24日（金） 12:20～12:50

場 所：図書館1階 多目的スペース

参加者：学生8名、教職員5名 計13名



●参加者名簿（敬称略）

学 生		教職員
子ども教育学科 324202 清水 奈々 324204 高橋 藍	健康栄養学科 622133 佐藤 穂花 624108 小野悠佑紀	大本 泉（図書館長、GS学科教授） 遊佐 重樹（図書委員、子ども教育学科教授） 志水田鶴子（図書委員、心理福祉学科准教授） 佐藤 啓朗（図書館事務長） 谷藤 大介（図書館主任）
心理福祉学科 523138 中嶋かのん 524117 柴谷 海優	GS学科 722213 菅原 愛莉 723116 菊池 奎迦	

●学生の意見・図書館の対応

学生の意見	図書館の対応
図書館にソファがあるので通っていたが、たまに横向きに寝ている人がいて使えなかったときがある。	図書館内については、定期的に職員が見回りを行っています。何かございましたらカウンターまでお知らせください。
図書館が1号館から遠いので、新刊案内などの簡単なお知らせがUNIPAにあれば良い。	UNIPAにて簡単な新刊案内を行い、図書館ホームページへのリンクを貼ります。また、学内掲示で新刊の紹介を行っています。
図書館の案内をUNIPAに載せてほしい。詳しいものは図書館HPにあるので、貸出期間や新刊案内など簡単な説明だけでもUNIPAにあると良い。	最新の文献については各学科で検討してもらい、必要なものを購入します。
授業で新しい文献を探していて、2000年以前の古い文献は揃っているが、2010年位以降の文献がない。	現在その機能はございませんので、貸出に関しては、カウンターでご確認ください。
今自分が何を借りているのかとか、借りたい本のリストをUNIPAで作れると良い。	自動貸出機の設置予定はございません。カトリック研究所の本の貸し出しをご希望の方は、お手数ですが図書館までご連絡をお願いします。
（5号館の）カトリック研究所で本を借りる時、図書館まで行って貸出手続きをするのに手間がかかる。自動貸出機をカトリック研究所に設置して欲しい。	図書の管理上、図書館以外での本の設置はできません。
1号館から遠いので、図書館に来る機会がない。1号館で貸出や、フリーで読める本や雑誌をおいて欲しい。	今後の図書購入の際に検討いたします。文庫本に関しては一部コーナーを設置しております。
大学の専門分野の本は多いが、物語や文学が少ない。新書や文庫本のコーナー等があると読みやすい。	図書の配置やコーナーの設置については今後検討いたします。
小説の配置を（今の書名順から）著者名順の配列にして使いやすくしてほしい。	利用者からのリクエストがあった本に関しては、図書館で積極的に取り入れる様に検討いたします。（ジャンル等に関しては問わない）
図書館に置いて欲しい本の申込書について、専門書でなくても良いか。	期限が過ぎた場合には、早急にご返却ください。
絵本を返していない人がいるが、期限が過ぎても返しやすくしてほしい。	図書館内の展示については、季節等に関するものを中心として随時行っています。
図書館入口の展示について、絵本を季節ごとに置いてほしい。	3号館2階の入口わきにある入館記録用紙にスタンプを押印し、入口開錠ボタンを押して、入館してください。
3号館2階から入館できるとのことだが、どうやって入るのかわからない。	少人数での飲食については、図書館1階にカウンターテーブルを設置しておりますので、ご利用ください。
飲食できるスペース（1階多目的スペース）に少人数で座れる小さいスペースがほしい。	

編集後記

「あなたは図書館を利用していますか？」

図書館では毎月、入館者数や図書貸出し数の集計を行っていますが、学生や教職員の利用状況は芳しくありません。かく言う私も4月に図書館へ異動してきたのですが、それ以前は図書館の利用はほとんどありませんでした。実際勤務してみると、図書館の雰囲気の良い、豊富な蔵書があることに気づきました。

図書館には、各学科の専門書をはじめ、話題の新刊、各種雑誌など沢山の書物があり、閲覧コーナーはもちろん、個別の自習スペースも設置しております。また、視聴覚コーナーでは様々なジャンルのDVDがあり、好きな時間に視聴することができます。このように図書館では、それぞれの用途に合わせて利用することが可能です。

図書館をまだ利用したことがない方は、是非一度図書館に足をお運びいただき、ご自分にあった利用方法を見つけてみて下さい。
（図書館事務長 佐藤 啓朗）

障がいのある方へ

障がいを持つ方の図書館利用に関する質問や案内、サポート等に対応します。
希望する場合は図書館スタッフにお申し出下さい。図書館は、バリアフリー設計となっております。

図書館ホームページ <https://sendai-shirayuri.ac.jp/campuslife/sslibrary/>